

令和5年4月17日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和5年3月分

～令和5年3月 データから見た業界の動き～

令和5年4月17日 発表

製造業は仕事量の激減により事業存続に危機感増
人材の不足は製造・非製造共に深刻化



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

～令和5年3月 データから見た業界の動き～

令和5年4月17日 発表

製造業は仕事量の激減により事業存続に危機感増

人材の不足は製造・非製造共に深刻化

■ 概 況

3月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +2ポイント（前年同月比2ポイント↓）

収益状況 ▲12ポイント（前年同月比16ポイント↑）

景況感 ▲4ポイント（前年同月比12ポイント↑）となり、

売上高のD.I値は前年同月を下回ったが、収益状況・景況感は前年を上回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲20ポイント（前年同月比25ポイント↓）

収益状況 ▲30ポイント（前年同月比10ポイント↑）

景況感 ▲20ポイント（前年同月比5ポイント↓）となった。

収益状況のD.I値は前年同月を上回ったが、前月と比べると▲5ポイントと低下している。

食料品や窯業・土石製品製造業では「（原材料価格や製造原価の高騰分を）一部は転嫁できているが、要望通りの回答は発注者からは得られていない」と製品価格の値上げ交渉が思うようには進んでいない状況が伺えた。

気になるのは売上高D.I値で、前年同月を大きく下回り（▲25ポイント）、前月と比べても▲10ポイントとなった。

相次ぐ値上げにより企業も個人も消費活動は陰りが見え、自動車産業や半導体製品製造機器では発注を控えるなどの動きもあり、電気機械器具製造業では、「赤字覚悟で見積もりを出しているが、これ以上手の打ちようがない」と、受注量の減少による事業存続の危機感を報告する事業者もあった。

非製造業では…

売上高 +17ポイント（前年同月比14ポイント↑）

収益状況 ±0ポイント（前年同月比20ポイント↑）

景況感 +7ポイント（前年同月比24ポイント↑）となり、

すべてのD.I値が前年同月の数値を上回った。特に収益状況・景況感はともに+20ポイント以上と全体の数値を大きく引き上げた。生産が安定的になった自動車の販売や宿泊サービス、運輸業が牽引した形となっているが、建設業では、県内の物件数の減少に加え、「安価で価格競争に参入してくる県外の事業者により県内の物件が奪われている（鉄骨鉄筋・鋼事業）」と、行き過ぎた低価格入札により製品・サービスの品質の低下が懸念されているなど、業種によって大きな偏りがあり、数値の改善が非製造業全体の傾向とは言えない状況である。

新型コロナウイルスの感染者数の減少や大型連休を間近に控え、観光産業では特に消費活動の活発化に期待が高まるが、製造・非製造ともに十分な人手が確保できていない状況から、従業員一人ひとりの仕事量の増加・受注機会の喪失を報告する調査員が増えた。

4月から中小企業にも時間外労働に対する割増賃金率の引き上げが適用され、人件費のさらなる増加が予想され、さらに運送業・建設業では令和6年4月に時間外労働が規制され、今より更に効率的な作業・工程管理などが求められる。

物価高への対応も迫られ、収益の確保が難しく、事業の継続を断念する事業者の増加も考えられる。

中央会では、経営改善や事業の効率化を目指す中小企業者への支援として専門家派遣事業を用意している。積極的な活用をお願いします。

■ 調査員からの国等への要望・コメント ピックアップ!

中小企業者、特に小規模事業者・零細企業では育児休業や介護休業などで従業員が一人でも職場を離脱すると会社の運営が滞ってしまう。働き方改革について理解はしているが、事業者の規模に応じる等の柔軟な運用を求める。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	行動制限が解除され観光客が増えたことでギフト用・業務用とも需要が増加し、前年同月と比べ売上げ143.5%となった。
食料品 (洋菓子製造業)	販売価格の値上げは行っていないが、水産物加工業と同様に観光客が増えたことで需要が増加し、前年同月と比べ売上げは114.7%となった。
食料品 (麺類製造)	行動制限が解除されたことで人流の回復を感じているが、人手不足であるため急激な仕事量の増加に対応できるか不安である。人材を募集してもなかなか応募がない。
食料品 (パン・菓子製造業)	前年同月と比べ売上げは10%増加したが、原材料・包材等の価格が高騰しており、収益の確保が困難な状況が続いているため、販売価格の値上げに向けて取引先との交渉に奔走している。
食料品 (酒類製造業)	ワイン業界は厳しい状況が続いている。コロナ禍の終息が見える中、なんとしても景気高揚を進めたいと考えている。
繊維・同製品 (織物)	インテリア部門▶コロナ禍の終息が見えはじめ注文が増えているが、機屋が減少しているため生産量を増やすことが困難な状況である。 裏地部門▶原糸の納入遅延・不足が続いており、例年と比べて稼働状況が芳しくない。 ネクタイ部門▶イベントでの売れ行きは芳しくなく、原糸の価格が高騰しているため、OEMの発注も控えている。 傘地部門▶梅雨のシーズンに向けて、定番商品を生産している。 その他▶織物を生産する工程における染色を担う事業者の廃業が増えており、組合として対応を余儀なくされている。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上げ▲30%となった。ウッドショックが落ち着き外国産材の価格が値下げに転じており、国産材の市場は今後厳しくなると予測している。
家具製造	原材料価格の高騰と物価上昇による消費活動の停滞から、前年同月と比べ売上げは▲5%、収益状況は▲40%となった。回復の兆しが見えず先行きは非常に暗い。 人材不足も深刻であり、将来への期待が持てずよりよい労働条件を求めて転職する従業員も増えている。
印刷・同関連業	デジタル化の風潮が強まっており、印刷物の需要が低下している。今後もこの流れは続くと考えている。
窯業・土石 (砂利)	燃料・電力・資材等の高騰により製造にかかるコストが上昇している。前年同月と比べ製品販売価格を10%ほど値上げしているが、十分な収益の確保はできていない。
窯業・土石 (山碎石)	取引先には製品単価のアップを要望しており、一部は転嫁できているが要望どおりの回答は得られておらず、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲3%となった。 公共工事の発注など建設・建築の案件が増えない限り、先行きは暗いままである。

鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	前年同月と比べ売上げ・収益ともに3%増加したが、先行きは不透明である。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	業界全体で半導体関連・自動車関連・製造機器などあらゆる分野の受注量が大きく減少しており、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲15%となった。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上げは10%増加、収益状況は5%増加した。半導体の納期遅延が解消され再見積りへの依頼など増えているが、従業員の休日出勤や時間外勤務が増えていることが課題である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	3月に入り仕事量が激減しており、前年同月と比べ売上げは▲40%、収益状況は▲30%となった。 半導体関連のリピート品の受注が全くないことに加え、少ない見積り案件に対する価格競争が激しく、赤字覚悟で見積りを出しているがこれ以上手の打ちようがない。
宝飾 (研磨)	3月は全国10か所で展示会が開催されたが客足が伸びず、前年同月と比べ売上げは▲20%、収益状況は▲10%となった。
宝飾 (貴金属)	原材料価格の上昇分の転嫁を進めており、前年同月と比べ製品販売価格は30%上昇しているが、売上げ・収益状況は▲40%となった。

● 非製造業

卸売 (自動車中古部品)	3月は廃車発生台数が例年と比べ少なく、前年同月と比べ売上げ・収益状況共に▲30%となった。レアメタルの売却価格の相場が下がっていることが不安材料であるが、新車の納車遅れも改善傾向であるため、4月以降の廃車の動きに期待している。
卸売 (ジュエリー)	アメリカの銀行が相次いで経営破綻したことを受け安全資産とされる「金」の需要が高まっており、3月には過去最高の1グラム=9,300円となった。世界的な品薄の影響で色石やルースなどの価格も急激に上昇しており、製品価格への転嫁が追い付かないうえ、さらなる値上げによって消費者の購買意欲が低下することを懸念している。 ジュエリーの国内需要は回復傾向であるが、しばらくは収益の確保が困難な状況が続くと考える。
小売 (青果)	前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲4%となった。花見等の様々なイベントが開催されるようになってきているため、今後の経済活動の活発化を期待している。
小売 (食肉)	行動制限がなくマスクの着用も強いられなくなったことで、飲食店・宿泊施設ともに客足が増加しており、食肉の注文量も回復傾向である。今後は仕入れ価格上昇分の転嫁を進めていく。
小売 (水産物)	前年同月と比べ売上げは▲4%、収益状況は▲2%となった。商品単価の値上がりは今後も続く予定である。

小 売 (自動車)	メーカーの生産が一時的に国内向けにシフトしたため、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに30%好転したが、半導体不足による新車の長納期化は当分続くと考えている。
小 売 (電気機械器具小売業)	省エネ機器の売れ行きが想定を下回ったが、テレビの売れ行きが好調で前年同月と比べ売上げは3%増加した。
小 売 (事務機小売業)	メーカーの希望小売価格の改定を受けて、ユーザーへの販売価格も5~10%ほど値上げした。
小 売 (ガソリン)	3月に入り原油価格は80ドル/バレルを下回り70ドル台後半で推移している。為替も130円代後半で推移していることから原油の調達コストも安定しているが、販売店では仕入価格の上昇分を転嫁でき切れておらず、収益の確保が困難な状況が続いている。
商 店 街	前年同月と比べ売上げは3%増加したが、人材を募集しても応募がなく、人手不足が深刻である。
商 店 街	組合が管理する駐車場の売上げは回復傾向であるが、各店の売上げが毎月減少し続けており、前年同月と比べ売上げは▲24%、収益状況は▲26%となった。打開策が見つからず、どうすれば明るい未来が見えるのか見当がつかない。
宿 泊 業	電力・水道・ガス等の価格上昇が尋常でなく、宿泊施設は大きなダメージを受けており、安定した収益を確保するためには宿泊料の値上げの検討が必要である。 コロナウイルスの感染法上の位置づけが5月から「5類」に移行されるため、国内外の観光客の増加に期待している。
警 備 業	工事終了が予定よりも早まった現場が多く警備員の稼働量が減少したが、公共工事については例年通りの受注量であり、公共工事の労務単価の改定を受けて受注価格も上昇したため、前年同月とほぼ同程度の売上げを確保することができた。 イベント関連の警備がコロナ禍以前の状況に戻りはじめているが、高齢による退職が増え、人材募集に力を入れているが新規の雇用はなく、人手不足が深刻である。
建 設 業 (総 合)	3月の県内公共工事は、件数、請負金額ともに前年同月と変化はなかった。3月末累計では件数で3%減少、請負金額でも4%とそれぞれ減少している。
建 設 業 (型 枠)	県内の型枠工事の件数減少に伴いゼネコンの価格競争が激化している。職人の日当や原材料価格の上昇分を請負単価へ転嫁することも容認されず、前年同月と比べ売上げ、収益状況ともに▲10%となった。 首都圏との請負単価の価格差は開く一方であり、県内の型枠業者の先行きは暗い。
建 設 業 (鉄 構)	安価で価格競争に参入してくる県外の鉄骨加工業者に、数少ない(10年前の件数よりも8割減少)県内の物件が奪われている。首都圏の大手ゼネコンは職人不足と原材料価格の高騰を理解し請負単価を上昇させているため、首都圏の物件に依存している県内の鉄骨加工業者も多い。

<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>一般工事の改築・増築の案件が製造業を中心に増加しており、電気工事業は堅調に推移している。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>公共工事の安定的な受注により、前年同月と比べ売上げは57%増加、収益状況は51%好転した。</p>
<p>運輸 (タクシー)</p>	<p>タクシーの稼働が増加している。特に週末夜間の稼働が大きく増加したことで、前年同月と比べ売上げは50%増加、収益状況は30%好転した。 4月からタクシー料金が改定され初乗り運賃が引き下げられるため、近距離の利用者増加に期待している。</p>
<p>運輸 (トラック)</p>	<p>前年同月と比べて荷動きがよく売上げは10%増加したが、燃料価格や車両の部品・点検費用の上昇により収益の確保が困難な状況が続いている。 今後、時間外労働の割増賃金率の引き上げによる人件費の増加が予測されるため、労務管理を一層徹底するとともに、荷主企業への運賃アップの交渉も根気強く行わなければ、組合員は事業の継続も危うい状況に陥ると考えている。</p>
<p>その他 (介護)</p>	<p>人手不足により仕事量を調整したことで利用者が減少し、前年同月と比べ売上げ▲6%となった。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2022年3月	2023年2月	2023年3月	2022年3月	2023年2月	2023年3月	2022年3月	2023年2月	2023年3月
売上高	5	▲ 10	▲ 20	3	10	17	4	2	2
収益状況	▲ 40	▲ 25	▲ 30	▲ 20	▲ 13	0	▲ 28	▲ 18	▲ 12
景況感	▲ 15	▲ 20	▲ 20	▲ 17	▲ 7	7	▲ 16	▲ 12	▲ 4

※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数) ×100) = D.I値

